

6. [その他の課題について]

掛合町会場（掛合総合センター）

Q1：木質バイオマスについて、事業としては大賛成であるが、ボイラー設備が稼働すべき段階で、うまく稼働できないところがあったと聞いたが、その辺の調査がなされてどうだったか。

A：鳥取県智頭町等を手本として、実際に稼働しているところを参考にしてきた。取り掛かろうとして稼働していないところの情報は持っていない。今年度は、掛合と吉田で取組みを行っており、参加者の研修も終え実現に向けて進んでいるところである。熱供給は、民間7社の企業体で行い、既に動き出している。稼働しようとして、稼働しないようなことは無いので、安心していただきたい。（市長）

Q2：稲わら確保について、市として、今後どのように確保するのか。畜産農家は、稲わら確保が困難な状況があり、できれば地元産をいろんな形で集約、確保していただきたいところである。WCS（発酵粗飼料）等、試験的になされているが、組織化による取組みの話はない。JAでも単独ではできないとのことであり、せめて、1市2町で行政が手を取り合って対応いただきたい。

A：雲南市内では、気候的な面や機械化により、乾燥した地元産の稲わらを充分確保できない状況である。地元産の稲わら確保は至上命題であり、少しでも地元産の安心な稲わらが使われていくよう、努力していく必要がある。直ちに充分な確保ができないが、外国産も含め、できるだけ気候条件の良い稲わらを使いながら、対応していく。新しい技術が生まれれば使っていく必要があるが、どう安く確保するかが課題となっていく。（産業振興部長）

Q（再質問）：稲わらについては、どうにも前に進まないような答弁だけでなく、具体的な計画を示し前向きなことをやっていただかなければ進展がない。検討いただきたい。

Q3：市道整備について、本年度5億円の予算で13路線を行うそうだが、進捗状況はどうか。早く、しつこくお願いした方がやってもらえるとの話がある。そのようなことは実際にはないのか。

A：早く言ったところを、早く取り掛かるようなことは全くない。これまでも実施計画に基づいて進めてきたし、今後も同様に進めていく。（市長）

A：24年度は交付金事業、起債事業、単独事業により15路線を予定している。市道整備は、早期発注、早期完成を目指しており、掛合町は出来山・寺谷線が対象となる。現在、継続路線の完成に全力を挙げている状況であるが、早く終わらせたいので、ストップしている路線や新規路線を必要性、緊急性を考慮のうえ優先順位をつけて取り組みたい。市の実施計画にそれらの路線を提示しているが、毎年ローリングを行いながら、予算確保に努めている。（建設部長）

要望：災害復旧について、昨年の市政懇談会で要望した市道の災害復旧は、年内に対応され喜んでいる。掛合、吉田の住民にとっては出雲が生活圏であり、里坊線（市道禅定角谷線）の使用頻度が高い。梅雨時期に被害があれば、昨年同様、年内には対応いただきたい。

Q4：脱原発依存について、安心・安全なまちづくりのなかに、将来的に原子力発電に頼らない社会の実現とあるが、話があったのは中国電力と雲南市の協定のことで具体策が見えない。全国の自治体や企業は、大規模太陽光発電所の建設を協力・推進している。また、鳥取県では8年後、2020年までには県内全家庭と

小企業の使用電力とを原発に全く依存しないで、メガソーラーを主とした自然代替エネルギーで賄うとした画期的政策を発表している。将来的に原子力発電に頼らない社会の実現に向け、具体策をもって示して欲しい。

A：現在、54基の原発を全部やめれば水力発電、火力発電で補うことが現実できないことは明らかで、直ちに原発ゼロにはならないと思っている。原発の安全性をより高められるよう、国が示した安全対策をもとに動かしていく必要がある。将来的には、代替エネルギーが原発に代わっていく必要があり、原発ゼロ社会を目指すことになる。具体的には、液体天然ガスを活用した発電があり、東京電力や関西電力では動いている。熱効率、建設期間、建設費用からも有利であり、本当に有効であればマスコミ等もさらに打ち出して進められる必要がある。先ほど言ったことを国に対して言い続けて、将来的に原発に頼らない社会の実現を目指したい。(市長)

Q5：給食費の無償化について、給食費の未払いが多いと聞いている。親の責任ではあるが給食費が未払いであることを知る子どもは辛い気持ちになる。無償化すればそのような問題がなくなり、子育て支援に繋がる。予算のこともあると思うが、無償化にする考えはないか。

A：現段階で、無償化は考えていない。滞納はあるが、経済状況が厳しく納付できない実態がある。国の支援制度として就学援助費があり、給食費の支援もできるので、そうした支援措置を有効に活用しながら、続けていきたい。(教育部長)

A：給食費の無償化について、「子育てするなら雲南市」を標榜するなか、教育に係る保護者負担を出来るだけ押さえていこうという総体的な考えのなかで対応していきたい。(市長)

Q6：国道54号線の環境整備について、高速道路整備に目が行くが、国道の道路脇の草が刈られていない。また、アスファルト舗装の凸凹が多く整備が悪い。かつては、もう少し管理されていた。

A：高速と国道は別管理で、国道は頓原維持出張所が管理している。以前から除草関係等、現地調査を行いながら、要望して対応していた。再度、現地調査を行いながら、必要に応じて国交省へ要望していく。舗装について、維持修繕されつつあり、出来山の橋のところで施工中であるが、本日の意見は国交省へ伝えていく。(建設部長)

A：国道の維持管理は、国交省が行うものである。広島中国地方整備局、松江国道管理事務所、頓原維持出張所に対し、交通に支障があればすぐ整備されるように言っている。国も厳しい予算のなかで一生懸命対応するとっており、今後も飯南町、奥出雲町、島根県と共に国に働きかけていく。(市長)

Q7：統合小学校を建設されたが、少子化が進むなか、雲南市においても小中一貫教育へ着手する状況があると思うが、考えはどうか。

A：一貫教育は、夢発見プログラムで進めている。保育所、幼稚園、小学校、中学校を対象として、幼児から中学校卒業までの間に、最低身につけさせるものがある。全ての学校共通のもの(平和賞、弁当の日)や、学校独自のものがあるが、掛合は保育所、小学校、中学校、掛合分校と一緒にしたプログラムのなかで、例えば地域と一体となった清掃活動によって環境教育、地域貢献を通した心の教育が行われている。今後、更に一貫教育を充実させていきたいと考える。(教育長)

Q8：掛合町内に薬局がなく不便である。掛合診療所のとなりに「かけや薬局」があるが、市販薬の販売はされない。販売されれば、高齢者や子どもを持つ保護者にとっても、非常に便利になるが・・・。

A：「かけや薬局」は、掛合診療所の院外処方本来の役割であり、販売目的ではない。風邪ぐすり、胃薬程度は、置いてあるはず。薬局で市販薬を揃えて販売ができるかどうかは、薬局と相談しながら考えていく。そして、その状況を伝えさせていただく。(健康福祉部長)

後日回答

元々、施設の設計が掛合診療所の院外処方を目的としたものであるため、市販薬の陳列スペースが限られる状況。このため、通常の薬局のように市販薬を揃えることは困難だが、ある程度の一般的な常備薬は置いている。取り寄せも可能であるので、電話で問い合わせのうえご利用いただきたい。(健康福祉部長)

Q 9：災害対策について、要援護者避難の計画があるが、避難準備情報が発令された場合、福祉避難所への避難は行政の責任と解釈している。掛合町の福祉避難所の指定はどこか。ストレッチャー、車椅子の搬送手段の確保ができていないか。また、その対象者数を把握しているか。日中、高齢者しかいない状況のなか、避難できるのか。現在、雲南市が把握している状況は。

A：掛合町の要援護者の状況について、昨年度末の登録者数は109名であり、医療施設等が必要な人を対象とした個別支援計画の対象は25名である。昼夜状況が違うが、地域の支援者、地域自主組織を中心に自主防災組織の体制整備に向け、ご協力をいただいている。今後も、少しでも早い避難体制がとれるようご協力をお願いしたい。(統括危機管理監)

A：掛合町の福祉避難所は、えがおの里、好老センター、人間ふれあいセンターの3箇所を指定している。要援護者の病状、医療の状況は把握しており、どこへ避難するか判断している。人工透析者の受入れは、三刀屋健康福祉センターで行う。避難手段について、えがおの里、好老センターで行う介護保険事業のストレッチャー、車椅子を差し向けることになるため、事業を運営していただく社会福祉協議会や長寿障がい福祉課と連携しながら対応していく。(掛合総合センター保健福祉課長)

Q 10：掛合球場は、県大会レベルの公式戦でも使用される球場であるが、ネットの破れ、排水管の詰まりによるグラウンド陥没、スコアボードが無いなど、整備が行き届いていない。市内の球場使用料は統一されているので、できるだけ同じ条件であるよう、それなりの整備をお願いしたい。

A：市内の他の社会体育施設も不備はある。予算も限られており、優先順位をつけながら整備していきたいと考える。(教育部長)

A：早急に実態を見させていただき、ぜひ修繕が必要ということであれば対応するので、少し時間をいただきたい。(市長)

Q 11：まめなかセンター付近の照明について、高速開通によりICを降りた大型車の速度が速い。まめなかセンター前のカーブは照明が暗く、利用時に危険である。照度の確保をお願いしたい。

A：照度は、交差点、見通しの良し悪し等、それぞれ基準に沿ったものである。24年度末に三次JCTまで開通するので、交通量の変化を見ながらの対応になると思うが、現地を確認して国土交通省へ伝える。(建設部長)

Q 12：お悔やみ放送について、新年度から放送のしくみが変わったのか、人によって読み方がマチマチで失礼である。確かめてから放送していただきたい。

A：お悔やみの放送は、夢ネットで行うが、休日及び緊急時は総合センターから行なっている。ふりがなをつけているが、そのようなことがあったとすれば、再度徹底したい。(掛合総合センター所長)

Q13：福祉タクシーは木次、三刀屋では検討中とのことだった。総合センターごとに対応が違うのか。

A：福祉タクシーは、市内どこでも利用できる。町で対応の違いはない。(健康福祉部長)